

Hop Step Jump

16

初任者研修第 14 回
授業づくり⑦アンケートより

今回のテーマは『情報教育、ICT を活用した授業づくりについて』。講師は、池田市教育センター、大賀健司指導主事でした。豊能地区においても、学校の ICT 環境は様々ですが、以前とったアンケートによると、7割近い初任の皆さんが ICT 機器を活用した授業づくりに取り組んでいるという結果でした。

学校にあまり機器がないことや、1 年生ということもあって、積極的に使ってこなかったのですが、学び方がぐっと変わり、分かりやすい面があることがよく感じられました。導入部で集中をぐっと引きつけられることやまとめとして子どものノートを見せられることがとても効果的だと思ったので活用していきたいと思います。

実物投影機をもっと使ってみたいので各学校の配置をふやしてほしいです。もう少し早くこの研修があったらもっとたくさんの場面で使えたなと思いました。これからはもっと積極的につかっていききたいです。

学習がしんどい子どもたちにもわかりやすい授業になるし、視線が前にあがることで、授業に参加しやすくなると思う。「教科書の右下の絵」ではなく、○印をつけて「ここ」と指すことで、クラス全員の理解がすぐに一致させることができるよい教具だと思った。ほしいなと本当に思いました！

1 年生だからこそ、視覚支援が役に立ちます。良いノートを拡大したり、先生の手元の拡大など、大きく引き伸ばし、一斉に目を集めるのは、実物投影機の得意分野です。また透明シートを使えば、本文に線を引く場所を指定したり、図に補足を加えたりする際に役立ちます。デジタル教科書でできることは実物投影機でも可能です。何を見せて、何を見せないのか、どんな様に拡大するのかを考えることこそ、授業づくりの腕の見せ所。あなたの教室の電子黒板には、タイマーしか映ってないなんてことはありませんか！？

フラッシュカード面白いなと思いました。何回か授業で使ったことがあるのですが、こういう使い方がある、こういう工夫をしたらいいんだと学びました。ICT は、なかなか難しそうです…実物投影機が学校にあったらいいなと心から思いました。

普段、「家で復習しといてよー」と言いつぱなしになっているところもあるので、フラッシュカードを用いてその日のうち、次の授業で復習できることに気づきました。

実物投影機を使うことで、生徒の目線や注意を引きつけられるのだと改めて感じました。視覚にうったえることの重要性は日々痛感しているので実物投影機にとどまらず、ICT 機器を積極的に活用していこうと思いました。ただ、ICT で興味を引き続けることができても、実際の学力(能力)を身につけさせられるかということ、そうでもないという現実にも直面しているので、今日の講義は ICT 活用の原点を学ぶことができ大変参考になりました。

やはり覚えるためには反復練習は必要です。そんな時に「宿題ね！来週テスト！！」とするだけでなく、授業内に反復練習の時間を確保することは大切なことではないでしょうか。内容によっては 20 分や 30 分、しっかり時間をとって、行う必要があるものもあるでしょうが、数分の反復を毎日続けた方がいい内容もあります。そのためのフラッシュカードは強力なツールです。教材の提示の仕方や難易度の流れ、テンポやほめ方など、少しのコツで、集中力が増し、定着率もあがります。すべての子どもたちの基礎基本の定着を、授業で保障することにつながります。

ICT を活用して、視覚的に捉えることができるというメリットを生かして、上手く効果的に使っていくことが大切だと思います。ワークショップを通して、他の先生方のアイデアを頂くこともでき、すごく勉強になりました。使い方や特徴をしっかりと頭に入れて、授業でも使っていききたいと思います。情報モラルについても子どもたちに指導するために、自分自身が正しい情報を取捨選択できる力をつける必要があると感じました。校務にももっともっと ICT が導入されたいなと思います。「活用」できるようにがんばります。

何よりもワークショップが楽しそうで、色々なアイデアが提案、共有され、いきいきと教材研究が進みました。とはいえ今回の内容は、教育の情報化の中でも、「わかりやすい授業をするための教師による活用」の部分。授業づくりの基本にこだわった、即実践可能な最初の第一歩でした。授業づくりと ICT の特性を考え、興味を引くだけにとどまらない、基礎基本の定着を目指した ICT 機器の活用です。『ふりかけ』を上手に活用して、皆さんの授業がさらに豊かになればと思います。